

外国語(英語)科学習指導案

「The United Kingdom」

(中学校 第2学年)

茅ヶ崎市立松林中学校 山口 正文



わたしが授業で重視していることは次のことです。

簡単な英語を使って教科書の導入を行う。

パターンプラクティスを行い、全員が自信を持って新出文を言えるようにする。

内容の理解がすんだら、暗唱が出来るまで教科書の音読練習を行う。

音読することによって、生徒は自然なリズムやイントネーション、発音を身に付けていく。このように授業を組み立てることで、実践的コミュニケーション能力の基礎が養われていくと確信しています。

神奈川県立総合教育センター

1 学年 中学校 第2学年

2 単元名 「The United Kingdom」 (NEW CROWN 2)

3 単元の目標

(1) There is (are)~. の文を用いて、身の回りの状況を英語で表現し、また、相手にたずねることができる。

(2) 接続詞 that を用いて、自分の意見や知っていることなどを英語で表現することができる。

(3) 私たちがイギリスと呼ぶ国が、実はそれぞれ独自の文化と言語を持つ4つの「国」ともいべき地域の集合体であることを理解する。また、スコットランドでは英語とあわせて「ゲール語」というその土地固有の言語も用いられていることを理解する。

(4) Eメールの書き方を理解し、英文を作成する。

4 単元設定の理由

身の回りの状況を表現したり、相手にたずねる際に利用する There is (are)~. Is (Are) there~? の言い方や、自分の意見や知っていることを表現する際に用いられる、接続詞 that を使って英語で表現することもコミュニケーション活動を行う上で不可欠であろう。すでに指示代名詞 that の用法には十分に習熟しているため、接続詞としての that の用法との混乱は心配ないと思われる。There is (are)~. の文体はそれ自体としては特殊な形態をとるが、1年時より練習している主語 + 動詞という語順の変形としてとらえれば理解可能であろう。主語の単数・複数による be 動詞の使い分けも抵抗なく受け入れることができると思われる。

あわせて、生徒はイギリスという国について知っているようで実は知らないことが多い。例えば、「イギリス」という呼び方が正確な国名ではない、ということを知っている生徒は少ない。そうした意味で、私たちがイギリスと呼ぶ国が、実はそれぞれ独自性を持った4つの「国」から成り立っていることを知るのとはとても大切なことと考える。

さらに、従来は通信媒体として手紙が使われてきたが、今後は、Eメールが一般的な通信手段の1つになるであろう。Eメールの形式に慣れ自分で発信することができるようにすることが必要である。

以上の理由で本単元を設定したい。

5 単元の指導計画（5時間扱い）

第1時：

メアリーがクミの電子メールに対して返事を送る場面を通して、「イギリス」と呼ばれる国が、実はそれぞれ4つの「国」ともいべき地域の集合体で、それぞれ独自の文化や言語を持っていることを理解させる。

There is (are)~. の文の構造について理解し、口頭でスムーズに言えるようにする。

第2時（本時）：

4つの地域の独自性は、例えばワールドカップ・サッカーでは、これら4つの地域がそれぞれ

1つの国として認められているほどであることを理解させる。

There is (are) ~. の文を用いて、身の回りの状況を英語で表現できるようにする。

Is (Are) there ~? の文の構造について理解し、口頭でスムーズに言えるようにする。

第3時：

スコットランドでは英語とあわせて「ゲール語」というその土地固有の言語も用いられていることを理解させる。

I think that ~. の文の構造について理解し、口頭でスムーズに言えるようにする。

第4時：LET'S COMMUNICATE! を用いて、単元全体のまとめをする。

Is (Are) there ~? の疑問文を使って、身の回りの状況を問答できるようにする。

接続詞 that を用いて、自分の意見や知っていることなどを英語で表現できるようにする。

第5時：

外国人講師にあててEメールを書き、それを送信できるようにする。

6 単元の評価計画

(1) 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・ There is(are) ~ . Is (Are) there ~? や I think that ~. の文を用いて、身の回りの状況や自分の意見、知っていること等を積極的に表現しようとする。	・ There is(are) ~ . Is (Are) there ~? の文を用いて身の回りの状況を正しく表現することができる。 ・ 接続詞 that を用いて自分の意見や知っていることなどを正しく表現することができる。		・ 「イギリス」の言葉、歴史、文化について理解している。 ・ Eメールの書き方について学び、実際に送ることができる。 ・ There is(are) ~ . の文の構造を理解している。接続詞 that の使い方を理解している。

(2) 評価計画 太枠内が本時

時	学習内容	評価項目			
		関心・意欲・態度	表現	理解	言語・文化
1	・ 「イギリス」と呼ばれている国が、実は4つの「国」の集合体であることを理解する。 ・ There is (are) ~ . の文の構造				「イギリス」と呼ばれている国が、実は4つの「国」の集合体であることを理解している。 ・ There is(are) ~ . の文の構造を理解

	<p>を理解し、口頭でスムーズに言えるように練習する。</p>				<p>している。</p>
2	<p>・ 休日の公園の様子を There is (are) ~. の文を用いて表現する。</p> <p>・ イギリスの4つの地域の独自性は、例えばワールドカップサッカーでは、これら4つの地域がそれぞれ1つの国として認められている程であることを理解する。</p> <p>・ Is (Are) there ~ ? の文の構造を理解し、口頭でスムーズに言えるように練習する。</p>	<p>There is (are) ~. の文を用いて、休日の公園の様子を積極的に表現しようとする。</p>	<p>There is (are) ~. の文を用いて、公園の様子を適切な速さや声の大きさを正しく表現している。</p>		
3	<p>・ スコットランドでは英語とあわせて「ゲール語」というその土地固有の言語も用いられていることを理解する。</p> <p>・ 接続詞 that を</p>			<p>I hope (think) that ~. の文を聞いたり読んだりして、その内容を正しく理解することができる。</p>	<p>スコットランドでは英語とあわせて「ゲール語」も用いられていることを理解している。</p> <p>・ 接続詞 that の使</p>

	用いた文の構造を理解し、口頭でスムーズに言えるように練習する。				い方を理解している。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と対話をしながら2枚の絵の違いをさがす。 ・聞き取った英文について、I think ~ . や I don't think ~ . を使って自分の考えを表現する。 ・連合王国の4つの国の場所を地図上で示す。 		友達と2枚の絵のうち1枚を見ながら、それぞれの絵について Is there ~ ? の文を用いて質問をしたり応答をしたりすることができる。		
5	There is (are) ~ . I think (know) that ~ . 等の表現を用いてALTにEメールを送る。		接続詞 that を用いて自分の意見や知っていることなどを表現することができる。		Eメールの書き方を理解し、実際に送ることができる。

7 本時の展開

(1) 本時の目標

4つの地域の独自性は、例えばワールドカップ・サッカーでは、これら4つの地域がそれぞれ1つの国として認められているほどであることを理解する。

There is (are) ~ . の文を用いて、身の回りの状況を英語で表現できるようになる。

Is (Are) there ~ ? の文の構造について理解し、口頭でスムーズに言えるようになる。

(2) 本時の指導過程

過程	学 習 活 動	指 導 内 容	指導上の留意点	評価観点(方法)
導入 (15分)	1 あいさつ 2 復習 リスニング	前時の内容の復習 本文を聞き取らせる。	閉本して行う。 ピクチャーカードを	

	音読	・理解度を確認するために TF テストをする。 暗唱できるまで音読の練習をさせる。	使う。 発音、イントネーション、アクセントに留意して大きい声で音読をさせる。	
	パターンプラクティス	前時に学習した新出文の口頭練習	発音、イントネーション、アクセントに留意して大きい声で行わせる。	
	実技テスト レポートイング	休日の公園の様子について、There is (a re) ~ . 現在進行形の文を用いて表現させる。	・6つ以上の英文を用いて積極的に言わせる。 ・本時は、5人の生徒のみ行う。	・6つ以上の英文が言える。 【関心】(発表) ・公園の様子を正しく表現できる。 【表現】(発表)
展開 (30分)	1 新出文 新出文の導入 絵を使って新出文を英語で口頭導入する。 新出文の練習	There is ~ . の疑問文は Is there ~? になることに気づかせる。 パターンプラクティスを用いて効率的に新出文の口頭練習をさせる。	Is there ~? Yes, there is. の応答を繰り返し聞かせる。 発音、イントネーション、アクセントに留意して大きい声で行わせる。	
	2 本文 本文の導入 写真を使って本文を英語で口頭導入する。 内容の理解	本文の内容を大まかにつかませる。 本文の内容をしっかりと確認させる。	細部まで理解させる必要はない。 ハンドアウトを使ってしっかりと理解させる。	
	本文の音読	教師のあとについて	発音、イントネーション	

		正確に音読をさせる。	ヨン、アクセントに留意して大きい声で行わせる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・新出文の確認 ・家庭学習の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書をもとに再度新出文の確認をさせる。 ・本文の読み書きを練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意味の確認と読み方の確認をさせる。

所 属 茅ヶ崎市立松林中学校 氏 名 山口 正文